

Y17b 木曾観測所における地域連携事業の一例（木曾星の里づくり推進協議会）

青木 勉、小林尚人、征矢野隆夫、樽澤賢一、高橋英則、近藤荘平、森由貴（東京大学）、畑英利、若林博、清水醇（木曾星の里づくり推進協議会）、木曾星の里づくり推進協議会

東京大学木曾観測所は1974年に設立され、シュミット望遠鏡での観測・研究を行いながら、観望会や講演会、理科教育プログラム等、様々な社会貢献活動も積極的に行ってきた。観測所がある長野県木曾地域は人口が密集していないために「光害」がほとんど無く、空気が澄み、標高も高いことから、星空観察には良い条件の場所であるといえる。こうした恵まれた立地条件を地域と連携し活かして行くため、これまで天体・星空に関わる様々な活動を行っている関係者（天文愛好者）と行政（県及び周辺町村）、木曾観測所が連携し2017年度に「木曾星の里づくり推進協議会」を立上げた。この協議会は星空環境を守っていくことは元より、星空をテーマとした観光、教育等の各分野の取組をますます発展させて行くことを目指している。実際には、木曾観測所周辺の障害木の伐採や駐車場整備などの環境整備をはじめとして、人材育成を目的とした講演会や天文講座等を行ってきた。本年会では、木曾星の里づくり推進協議会の活動や木曾観測所との関わりについて詳しく報告する。